

# 三菱重工業株式会社

## ビル用マルチエアコン室外機

## LXYリフレッシュマルチシリーズ据付説明書

- 本説明書は“室外機と総合工事仕様”について示したものです。“室内機”については室内機に付属の“据付説明書”をご覧ください。
- 据付される前にこの据付説明書をよくお読みいただき、指示通り据付工事を行ってください。
- リフレッシュキットを用いた既設配管洗浄を行なう場合には、手順その他についてリフレッシュキット同梱の説明書を参照ください。

### 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みの上確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は【△警告】、【△注意】に区分していますが、誤った据付をした時に死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に【△警告】の欄にまとめて記載しています。しかし【△注意】の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。【○】 絶対に行わない 【⚠】 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。

### 警告

- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。据付に不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるけが等の原因になります。
- 据付は、販売店又は専門業者に依頼する。
- ご自分で据付工事をする場合、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるけが等の原因になります。
- 据付時やサービス時など、ユニット内の作業を行う場合は電源を切ってから行う。
- 感電の危険があります。
- 小部屋へ据付する場合は万が一冷媒が漏れても限界濃度(0.3kg/m<sup>3</sup>)を超えない対策が必要です。限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付する。
- 万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 据付けは重量に十分耐える所に確実に行う。
- 強度が不足している場合は、ユニットの落下・転倒などにより、けがの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
- 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- ユニット搬入する際、重荷に適合したロープをユニット所定位置に掛け行う。
- 搬入方法に不備があるとユニットが落下し、死亡や重傷の原因となります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
- 当指定部品を使用しないと、ユニットの落下、水漏れや火災、感電、冷媒漏れ、能力不足、制御不良などの原因になります。
- 空気清浄機、加湿器、暖房用電気ヒーターなどの別売品は、必ず当社指定の製品を使用する。
- また、取付工事は販売店または専門業者に依頼する。ご自身で工事され、不備があると、水漏れ、感電、火災の原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
- 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は所定のケーブルを使用し確実に接続し、露出接続部にケーブルの外力の伝わりないように確実に固定する。
- 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災、感電等の原因になります。
- 電気接続部にははごりの付着、結まり、がたつきがないことを確認し、確実に接続する。
- はごりの付着、結まり、がたつきがあると感電、火災の原因になります。
- 配線は、引き上げられないよう整形し、ケーブルを保護するケーブルを取り付ける。
- 取り付けが不完全な場合は発熱、火災や感電の原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける。
- 冷媒配管が取りつけられず、操作弁開放状態で圧縮機を運転すると急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。また空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けが等の原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は配管をうけ付け、作業を中断する。冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR410A専用のものを使用する。
- 既存（R410A用以外）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂、けが等の重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチを使用しダブルスパンで適正トルクで締め付ける。
- フレアナットの締め付けすぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒が漏洩します。フレア部の緩み、破損が発生した場合、冷媒が漏洩して酸欠事故の原因になります。
- ポンプアップ作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。
- 圧縮機を運転したまま操作弁開放状態で冷媒配管をはずすと急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。また圧縮機が空転などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けが等の原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は発熱をする。
- 冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒が漏れていないことを確認する。
- 冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 冷媒配管工事、気密試験及び真空引きが完了するまでは操作弁（ガス・液側弁）を開けない。
- 急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。
- 冷媒配管はイオウ系ガス等、有害ガスの発生する排水溝に直接入れない。
- 室内に有毒ガスが侵入する恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- エアコンの設置や移動の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気を混入しない。
- 空気が混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けが等の原因になります。

### 注意

- 点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保する。
- スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるけがの原因になります。
- 室外機を屋上あるいは高所に設置する場合は、転落防止のため、適当には短くハンゴ、手すり等を、また室外機の周囲にはフェンス、手すり等を設ける。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
- 据付に不備があると、異常振動・騒音増大の原因になります。
- 冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認する。
- 万一、古い部屋に冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 冷媒配管の防露断熱工事を行う。
- 防露断熱工事に不備があると、水漏れ、露たれし、家財等を濡らす原因になります。
- 漏電遮断器を取り付ける。
- 漏電遮断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になります。
- ドレン工事の際は据付説明書に従って確実に排水するようにし、結露が生じないように保温する。
- 不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になります。
- アース(接地)を確実に行う。
- アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話や他のアース線に接続しない。
- アース(接地)が不確実な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になります。
- 食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途に使用しない。
- 保存品の品質低下などの原因になることがあります。
- 室外機は、小動物のすみかになるような場所には設置しない。
- 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になります。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 包装用のバンドを持って荷扱いしない。
- 素手で梱包用の材を扱わない。
- 可燃性ガスの漏れ等の恐れのある場所や引火物のある所へは設置しない。
- 可燃性ガスの漏れや発生、流入、滞留の恐れのある場所やカーボン繊維が浮遊する場所では火災の原因になります。
- 動植物に直接ファン吹き出し風が当たる場所には設置しない。
- 吹き出し風による植木等への被害の原因になります。
- 室外機の上に物を置いて運転を行わない。
- 落下物により破損したり、ケガの原因となります。
- 室外機の上に乗らない。
- 落下、転倒等によりケガの原因となります。

### 冷媒R410A対応機としての注意点

- R410A以外の冷媒を使用しないでください。R410Aは従来の冷媒（R22、R407C）に比べ圧力が約1.6倍高くなります。R410Aはガンベ上部に桃色の表示があります。
- R410A機は、他冷媒の誤封入防止のため室外機操作弁のチェックジョイント径とユニット内のチェックジョイント径を変更しています。又、耐圧強度を上げるため冷媒配管のフレア加工寸法及びフレアナットの対応寸法を変更しています。従って、施工・サービス時には右表に示すR410A専用ツールを準備してください。
- チャージシリンダは使用しないでください。チャージシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。
- 冷媒封入は必ず液相で取り出して行ってください。
- 室内機はR410A専用機となります。接続可能な室内機はカタログ等で確認してください。（他の室内機を接続すると正常運転できません）

	R410A専用ツール
a	ゲージマニホールド
b	チャージホース
c	冷媒充填用電子はかり
d	トルクレンチ
e	フレアツール
f	出し代調整用銅管ゲージ
g	真空ポンプアダプター
h	ガス漏れ検知器

### 2-2. 据付スペース(サービススペース)例

(ア)サービススペース（メンテナンス、人の通路、風路、現地配管スペース）を十分確保してください。

(本図の施工条件にあてはまらない場合は、代理店または弊社にご相談ください。)

(イ)機連統設置するときは、ユニット間10mm以上のサービススペースを確保してください。

(ウ)四面障壁のある場所には設置しないでください。

四面障壁ではなく、本図の施工条件にあてはまる場合であっても、ショートサーキットの恐れがある場合は、フレックスフローアダプタを取付けてショートサーキットを防止してください。

(エ)ユニット上方のスペースは1m以上確保してください。

※フレックスフローアダプタ、防雪フード、集中排水キット等の別売部品については販売店へお問合せください。

(オ)吹出口前面の障壁はユニット高さ以下としてください。

(カ)リフレッシュキットを用いた既設配管洗浄を行う場合、操作弁キットの周囲にサービススペースを確保してください。

操作弁キットの据付方法は操作弁キットの据付説明書を参照ください。

## 3. ユニットの搬入・据付

**△警告** ユニットのロープ掛けを行い、搬入する場合は必ずユニットの重心のずれを考慮ください。ユニットが安定を失って落下する恐れがあります。

### 3-1. 搬入

- 搬入経路を決めて、梱包のまま据付位置まで搬入ください。
  - 吊上げる場合、ユニットを傷つけないように当て板などで保護し2本の布製ロープにて吊上げてください。
- お願い
- ユニットとロープの接触面は当板、当布を沿えて傷つかないようにしてください。

### 3-2. 据付時の注意

- アンカーボルト（M10）を4個使用して室外機の脚定脚を必ず固定してください。ボルトの出力は20mmが最適です。
- ユニットを据え付ける場合、下記ボルトでユニットの足を必ず固定してください。

●前面側アンカーボルト飛び出し長さは15mm以下としてください。

●地震や突風などで倒れないように強固に据え付けてください。

●コンクリート基礎は左図を参照してください。

●ユニットは水平に設置してください。（ベース面で左右の差は5mm以下）

●コンブの故障、ユニット内配管の破損、異常音の原因になります。

**重要** 外気温-5℃以下で冷房運転を行う場合、フレックスフローアダプタ及び防雪フード（別売品）を取付けてください。

## 4. 冷媒配管工事

### 4-1. 配管仕様の決定（室内機の仕様と据付場所に合わせ、以下の内容で選定してください。）

#### (1) 配管の使用制限

●**配管工事は、必ず(1)項の最長、配管総長、第一分岐からの許容配管長、許容高低差(ヘッド差)の使用制限を守り施工してください。**

●配管途中にトラップ(⤵) 鳥居(⤴) 配管は油溜まりの原因となりますので回避してください。

●最長（室外機から最も遠い室内機まで）……………実長 160m以内（相当長 185m以内）  
但し、実長が90mを超える場合は配管径を変更する必要があります。

(3)項の(1)にあります主管選定表を参照し主管サイズを選定してください。

●配管総長……………510m以内

●主管の配管長……………130m以内

●第一分岐からの許容配管長……………90m以内  
但し、室内機間の配管長は40m以内

●許容高低差（ヘッド差）

(ア) 室外機が上位置の場合……………50m以内

(イ) 室外機が下位置の場合……………40m以内

(ウ) 系統内の室内機間の高低差……………18m以内

(エ) 第一分岐と室内機との高低差……………18m以内

#### (2) 配管材料の選定

●配管の内外面はきれいであり、使用上有害なイオウ、酸化物、ゴミ、切粉油脂、水分（コンタミ）の付着が無いものをご利用ください。

●冷媒配管は次の材料をご使用ください。

材質：リン酸塩鍍目無銅管（C1220T-O、1/2H、JIS H3300）

外径φ19.05以上はC1220T-1/2H、φ15.88以上はC1220T-O

●肉厚及びサイズ：配管サイズ選定要領に基づき選定ください。

（本機はR410Aを使用します。φ19.05以上の配管はO材では耐圧が不足するため、必ず1/2H材、最小肉厚以上をご使用ください。）

●配管の分岐は、必ず当社の分岐管セットまたはヘッダーセットをご使用ください。

●分岐管セットは取付け方向を注意し、付属の据付説明書をよくお読みの上施工してください。

●操作弁の取扱は4-3（1）操作弁の操作方法をご参照ください。

**ご注意**

制限範囲外の設置は、圧縮機故障の原因となり保証対象外となります。必ず使用制限を守り施工してください。

室外機

室内機

室内機間 高低差 18m

高 低 差 50m  
実 長 160m  
相 当 長 185m  
配管総長 510m

## 1. 据付の前に（機種・電源仕様・配管・必要別売品等を確認し正しく行ってください。）

#### ご注意

- 据付工事を行う前に必ず読んで、本書に従って工事をしてください。
- 室内機の据付については、室内機の据付説明書をご覧ください。
- 配管工事は、別売の分配用部品（分岐管セット、ヘッダーセット）が必要です。カタログ等をご参照ください。
- 漏電遮断器は必ず設置してください。（高調波対応品を選定してください。）
- 吐出管サミスタ、吸入管サミスタ、圧力センサ等を取り外して運転すると圧縮機を焼損することがあります。絶対に避けてください。

#### 付属品

名 称	個 数	使 用 箇 所	
配 線	2	静音モード、冷暖強制モードを使用する場合に室外基板上のCNGに挿入してご利用ください。	コントロールボックス内にテープで固定し付属しております。
エッジング	1	ノックアウト穴の保護用にご利用ください。	操作弁近傍のブラケットにテープで固定し付属しております。
付属配管	1	ガス管を接続する際にご利用ください。	操作弁の下ベースにテープで固定し付属しております。
取扱説明書	1	引き渡しの際、お客様に説明し保管をお願いしてください。	操作弁の下ベースにテープで固定し付属しております。

#### 組合せパターン

- 室外機の組合せパターンと室内機の接続台数と接続容量は右表に示す通りです。
- 下記室内機と組み合わせて使用することができます。

室内機	リモコン	接続可否
FDOP003LXシリーズ室内機	RC-D3(2ℓ)	可能
FDOP002LXシリーズ室内機	RC-D2(3ℓ)	可能
FDOP001LXシリーズ室内機	RC-D1(3ℓ)	不可

#### 【別売品】

据付の際には別途冷媒配管の分配用部品が必要です。

冷媒配管の分配用部品に関しては、分岐管セット（型式：DIS）とヘッダーセット（型式：HEAD）をご用意しています。

用途に応じて選定してください。4項の冷媒配管工事の項目を参照のうえ選定してください。

外気温が0℃以下の状態が12時間以上続く地域ではドレンパンヒータ（別売品）の設置が必要です。

不明な点があれば代理店または弊社にご相談ください。

冷媒分岐管セットとヘッダーセットは必ずR410A専用品をご使用ください。

リフレッシュキットを用いた既設配管洗浄運転を行う場合には操作弁キット（型式：FDCRP-V-KIT）の設置が必要です。

## 2. 据付場所（お客様の承認を得て据付場所を選んでください。）

### 2-1. 据付場所の選定

- 空気がかもらない所
- 他の熱源から熱輻射を受けない所
- 吹出口に強風が当たらない所
- ドレン水が流れてもよい所
- 騒音や熱風が隣家に迷惑をかけない所
- 積雪で埋まらない所
- テレビやラジオの周囲から5m以上離れた場所（電氣的障害を受ける場合は更に規制を受けない場所）

#### お願い

- (ア)ショートサーキットの恐れのある場合はフレックスフローアダプタを取付けてください。
- (イ)接続台設置する場合は特にショートサーキットが生じないように吸込みスペースを十分確保してください。
- (ウ)降雪地では積雪で埋まらないよう架台および防雪フードを設けてください。
- （降雪地では集中排水はしないでください。）
- (エ)可燃性ガスの漏れ等の恐れのある場所へは設置しないでください。
- (オ)ユニットの重量に十分耐えられる場所には確実に設置してください。
- (カ)次の様な特殊な場所に据え付ける場合は、腐食や故障の原因になりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
- ・腐食性ガスの発生する所（温泉地等）
  - ・潮風が当たるところ（海浜地区）
  - ・油煙が立ちこめる所。
  - ・電磁波を発生する機械のある所。
- (キ)強風の影響を受けやすい場所では下記内容に従って防風対策をおこない、ユニットに当たる最大瞬間風速が30m/sec以下になるようにしてください。
- 能力の低下、高圧上昇による異常停止、ファンモータの故障、ファンの破損等の原因となります。

①吹出口を壁面に向けて設置してください。

②ユニットの吹出口を風の方角とは直角に設置してください。

③基礎の不安定な場所では、ユニットを針金等で固定してください。

ユニット左右に連続設置する場合は、フレックスフローアダプタを取付けてください。

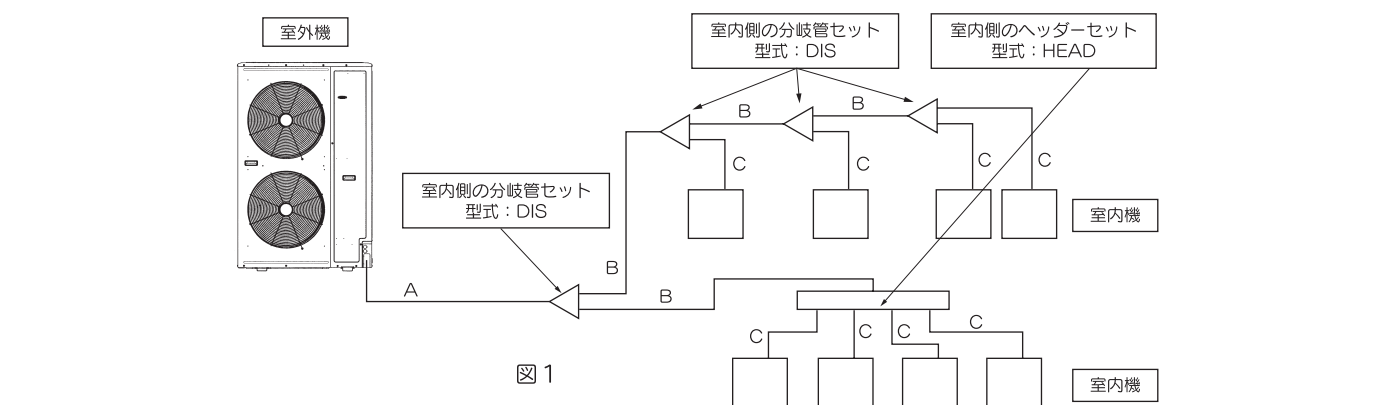
（ただし、吹出口から壁面までの距離が1500以上確保できれば取付不変です）

図1

### (3) 配管サイズ選定

**△警告** 必ず既設配管の材質、配管径、肉厚を確認し設計圧力（許容圧力）3.24MPa以上であることを確認して使用ください。

- 室内機を増設する場合の配管選定についてはビル用マルチエアコン（LXYシリーズ）技術資料を参照ください。
- φ19.05以上はC1220T-1/2H材を使用ください。



#### (1) 主管(室外機～室内側の第一分岐間)：図1のA部

主管	室外機	液管サイズ						ガス管サイズ					
		φ6.4	φ9.5	φ12.7	φ15.9	φ19.1	φ22.2	φ9.5	φ12.7	φ15.9	φ19.1	φ22.2	φ25.4
	224		○※1	○	○※2						○※1	○	
	280		○※1	○	○※2						○※1	○	

#### (2) 室内側の第一分岐～室内機の分岐間：図1のB部

室内分岐～主管の管径 (室内機の組合せ容量)	室内機容量	液管サイズ						ガス管サイズ					
		φ6.4	φ9.5	φ12.7	φ15.9	φ19.1	φ22.2	φ9.5	φ12.7	φ15.9	φ19.1	φ22.2	φ25.4
	～101未満									○	○※3		
	101以上～180未満										○		
	180以上～364未満			○							○	○	○※4

#### (2) 室内機分岐～室内機間：図1のC部

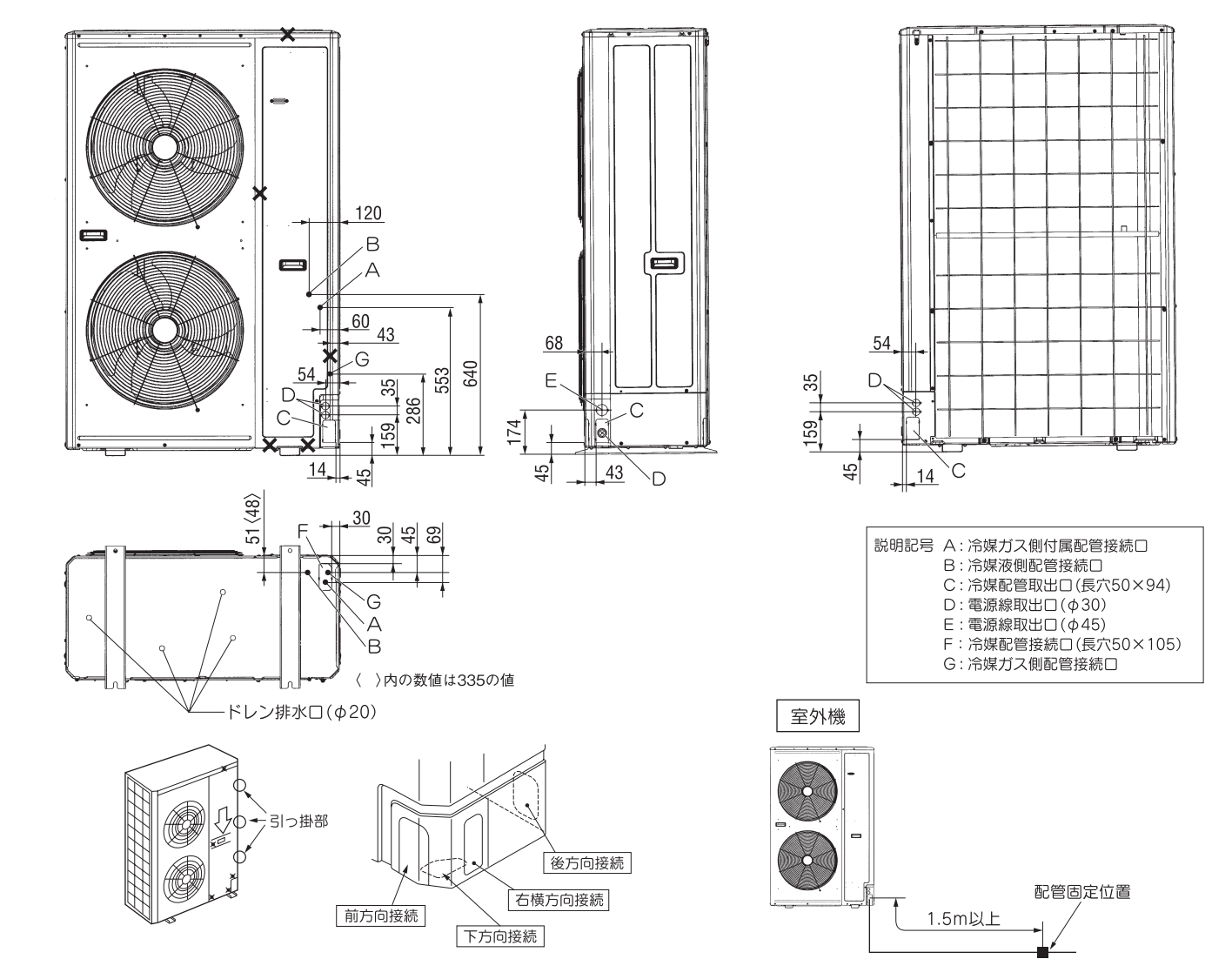
	室内機容量	液管サイズ						ガス管サイズ					
		φ6.4	φ9.5	φ12.7	φ15.9	φ19.1	φ22.2	φ9.5	φ12.7	φ15.9	φ19.1	φ22.2	φ25.4
	22	○							○	○※3			
	28	○							○	○※3			
	36	○											
	45	○											
	56	○	○										
	71		○						○	○			
	80	○							○	○			
	90									○			
	112		○							○	○		
	140		○							○	○		
	160									○	○		
	224		○	○						○	○	○	
	280		○	○							○	○	

- ※1. 配管長が90mを超える場合は使用できません。
- ※2. 主管長さが80mを超える場合は使用できません。
- ※3. 室内機～室内機高低差が10mを超える場合は使用できません。
- ※4. 下流の室内接続容量が280以上の場合に使用できます。
- ※5. 下流の室内接続容量が335以上の場合に使用できます。



## 4－2. 配管工事

### (1) 配管接続位置と配管取出方向



- サービスパネルは固定しているネジ5本（×印）を外し、パネルを矢印方向へ引き下げてから手前に外してください。
- 配管の取出しは前・右・下・後が可能です。
- 配管貫通部のノックアウトの板を必要最小限の寸法で取り外し、付属のエッジングを適当な長さで切断して配管接続前に取り付けてください。
- 現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフブランクをニッパにて切断し切り落としご使用ください。
- 配管取出口部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出口を閉鎖材（現地手配）で塞いでください。
- ドレン集中排水の際には、配線・配管の取出口は下抜き以外をご利用ください。下抜きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。
- 現地配管は、エルボ（現地手配品）を利用して操作弁と接続してください。
- 現地配管の固定は上図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。（防振方法によっては現地配管が折れる可能性があります。）

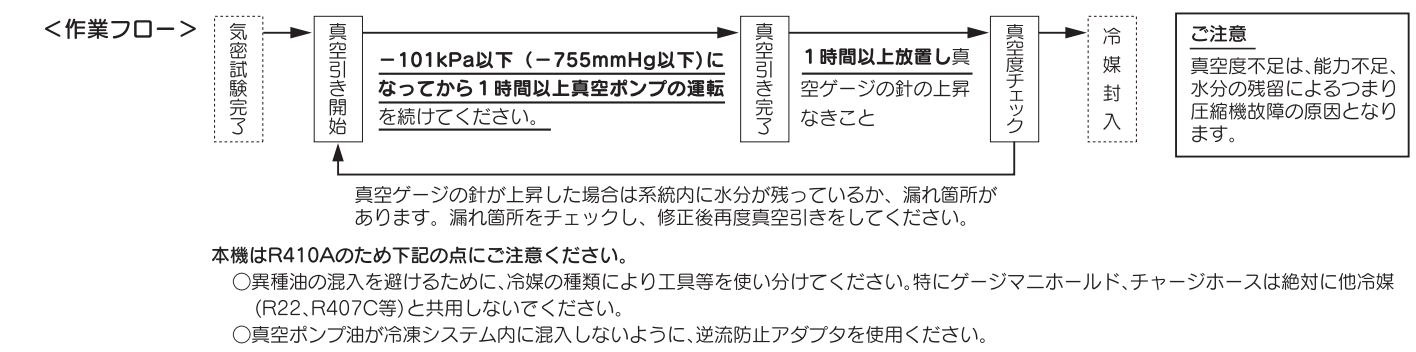
### (2) 現地配管施工

- 重要**
- 施工する配管はユニット内部部に接触しないように注意ください。
- 現地配管施工は、操作弁を全開のまま行ってください。**
- 配管内部に水分、異物が入らないように、管端の養生**（濡してろう付又は粘着テープによる）を十分に行ってください。
- 配管の曲げはできるだけ**大きな半径（配管径の4倍以上）**で行ってください。曲げ直しを何度も行わないでください。
- 室外機と冷媒配管との接続はフレア方式です。配管にフレアナットを取付け後、フレア加工を行ってください。R410Aのフレア加工寸法は、従来のR22、R407Cとは異なります。R410A用フレアツールを推奨しますが、出し代調整ゲージにて出し代B寸法を調整すれば、従来のツールを使用できます。
- 既設配管のフレア接続部は必ず新たに再加工をしてください。フレアナットは製品に付属されているものを使用してください。
- ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。**取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。
- フレア接続はダブルスパナで**しっかり締め付けてください。フレアナットの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

フレアナット二面幅：H (mm)		A	フレア管端部：A (mm)		フレア加工の銅管出し代：B (mm)	
鋼管外径	H		鋼管外径	A	リジッド（クラッチ式）の場合	R410A用ツール使用時
φ6.35	17		φ6.35	9.1	0～0.5	0.7～1.3
φ9.52	22		φ9.52	13.2		
φ12.7	26		φ12.7	16.6		
φ15.88	29		φ15.88	19.7		

5

- (2) 真空引き（リフレッシュキットを用いた配管洗浄を行う場合には、リフレッシュキットを接続する前に真空引きを行わないでください。）
- 液側操作弁チェックジョイントとガス側操作弁チェックジョイントの両側から真空引きをしてください。

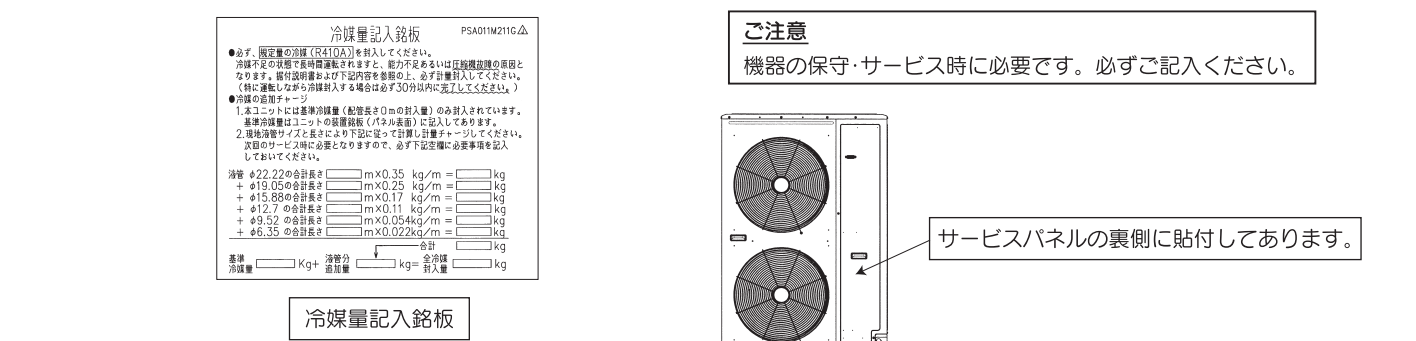


- 4－4. 冷媒の追加封入**（リフレッシュキットを用いた配管洗浄を行う場合には、リフレッシュキットを接続する前に冷媒の追加チャージを行わないでください。）
- 液の状態**で冷媒を追加封入してください。
  - 冷媒の封入は必ずかりを使用して**計算封入してください。
    - 室外機停止状態で、全て封入できない場合は試運転モードで運転し封入してください。（試運転方法は8項を参照ください。）
    - 冷媒不足の状態で長時間運転されますと圧縮機の故障の原因となります。（特に運転しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了してください。）
    - 本ユニットには基準冷媒量（配管長さ0mの封入量）のみ封入されています。
    - 追加冷媒量は下記計算式に使い決定し、その追加した冷媒量をサービスパネル表面の冷媒量記入銘板に記入してください。
  - 液量サイズと長さにより追加封入してください。**小数点2ケタ目を四捨五入して0.1kg単位で追加冷媒量を決定してください。

追加封入量 (kg) = (L3×0.17) + (L4×0.11) + (L5×0.054) + (L6×0.022)					
L3：φ15.88の合計の長さ (m)、L4：φ12.7 の合計の長さ (m)	冷媒配管サイズ	φ15.88	φ12.7	φ9.52	φ6.35
L5：φ 9.52の合計の長さ (m)、L6：φ 6.35の合計の長さ (m)	追加封入量 (kg/m)	0.17	0.11	0.054	0.022

- 本機はR410Aのため下記の点にご注意ください。**
  - ・異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具を使い分けてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒（R22、R407C等）と共用しないでください。
  - ・冷媒種類はボンベ上部に色表示（R410Aは桃色）してありますので、誤り無きよう十分確認してください。
  - ・チャージシリンダは絶対使用しないでください。R410Aをシリンダに移し換える際に冷媒組成が変化する恐れがあります。
  - ・冷媒封入は必ずボンベから液相で取出して行ってください。

- お願い**
- 配管長から算出した冷媒量をサービスパネル表面の冷媒量記入銘板に記入**してください。



## 4－5. 断熱・防露

- ①冷媒配管（ガス管、液管共）の防露断熱工事を行ってください。
  - 防露断熱工事に備があると、水漏れまたは露たれが発生し、家財等を濡らす原因となることがあります。
- ②断熱材は120℃以上の耐熱性があるものをご使用ください。耐熱性が低いと断熱不良や電線劣化の原因となります。
  - (ア)ガス管は冷房運転時、配管に結露したものかドレン水となり水漏れ事故となることを防ぎ、また、暖房時には吐出ガスが流れ、管表面温度が高温になるため、人に接触すると火傷などの危険性があるため、必ず断熱してください。
  - (イ)室内機のフレア接続部分は断熱材（パイプカバー）で断熱してください。（ガス管、液管共に断熱してください。）
  - (ウ)断熱はガス側、液側配管共両方に行ってください。その断熱材と配管を密着させて隙間ができないように接続線と共に外装テープで巻いてください。
  - (エ)本エアコンはJIS露付条件で試験を行い不具合のないことを確認しておりますが、相対湿度70％を超える天井内等では、ガス側液側配管共に厚さ20mm以上の断熱が必要となります。
    - 周囲の露点温度が28℃以上、または相対湿度80％以上となる場合はさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。

# 5. ドレン配管工事

- 室外機からのドレン水が問題になる場所では、別売品のドレンエルボ、ドレングロメットを利用してドレン配管を施工してください。
- 室外機の底板にはドレン水を排出する穴が4ヶ所あります。
- ドレン水を排水口などに導くときは平置き台（別売品）やブロックなどに載せて据え付けてください。
- 図の様にドレンエルボを接続し、他の穴はグロメットでふさいでください。
- ドレン集中排水の際には配線・配管の取出口は下抜き以外をご利用ください。下抜きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

PCB012D015A

市販の硬質塩ビパイプ 般番 VP-16

7

液側、ガス側操作弁とともに右のように操作弁本体を固定し、適正な締付トルクにて締め付けをお願いします。

操作弁サイズ (mm)	締 付トルク (N・m)	締付角度 (°)	工具の推奨長さ (mm)
φ6.35 (1/4")	14～18	45～60	150
φ9.52 (3/8")	34～42	30～45	200
φ12.7 (1/2")	49～61	30～45	250
φ15.88(5/8")	68～82	15～20	300
φ19.05(3/4")	100～120	15～20	450

- フレア部に付け油は使用しないでください。
- ろう付けは必ず窒素ガスを流しながら行ってください。**窒素ガスを流さないと多量の異物（酸化皮膜）が生成され、キャピラリーチューブ又は膨張弁詰まりによる致命的な故障の原因となります。
- 操作弁と配管とのろう付けは、弁本体を濡れたタオル等で冷やしながら実施ください。
- フラッシングを行う場合には窒素ガスを約0.02MPaで流し、管端を手で塞いで、管内の圧力が上昇したら手を放してください。（この時、他の管端はプラグで塞いでください。）

### 作業順序

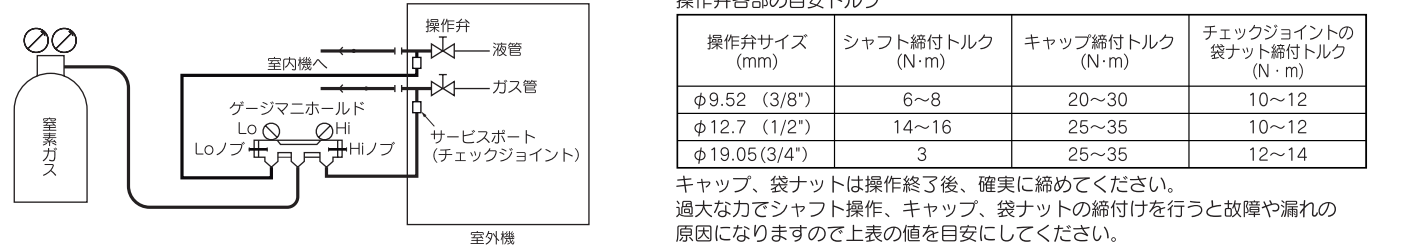
- ①**現地配管施工は、操作弁を全開のまま行ってください。**
- ②**ろう付けは必ず窒素ガスを流しながら行ってください。**窒素ガスを流さないと多量の異物（酸化皮膜）が生成され、キャピラリーチューブ又は膨張弁詰りによる致命的な故障の原因となります。

- ③**配管内部に水分、異物が入らないように、管端の養生**（濡してろう付又は粘着テープによる）を十分に行ってください。

- ④フラッシングを行う場合には窒素ガスを約0.02MPaで流し、管端を手で塞いで、管内の圧力が上昇したら手を放してください。（この時、他の管端はプラグで塞いでください。）

## 4－3. 気密試験・真空引き

- (1) 気密試験
- ①室外機本体の気密試験は弊社にて実施済ですが、配管接続後、接続配管および室内機の気密試験を室外機側の操作弁のチェックジョイントより行ってください。尚、**操作弁は必ず閉のまま**にして実施してください。
  - ②気密試験は、窒素ガスで機器の設計圧力まで、冷媒配管内を下記の要領で加圧して行うため、下図を参考にして器具類を接続してください。
    - 加圧ガスには塩素系冷媒及び酸素や可燃ガスなどは絶対に使用しないでください。
    - 操作弁は閉じたま**です。絶対に開かないでください。
    - 必ず液管、ガス管すべて加圧**してください。
  - ③加圧要領は以下の通り一度に設計圧力までしないで、徐々に行ってください。
    - (ア) **0.5MPaまで加圧したところで、加圧を止めて5分間以上放置**し、圧力の低下のないことを確認ください。
    - (イ) **次に1.5MPaまで加圧し、再び5分間以上そのまま放置**し、圧力の低下のないことを確認ください。
    - (ウ) その後、設計圧力（3.24MPa）まで昇圧し、周囲温度と圧力をメモしてください。
    - (エ) 規定値で**約1日放置し、圧力が低下していない場合は合格**です。
 この際周囲温度が1℃変化すると圧力が約0.01MPa変化しますので補正を行ってください。
    - (オ) (ア)～(エ)の確認で圧力低下が認められたものには漏れがあります。
      - 溶接箇所、フレア部等に発泡試験液等を用いて漏れ箇所を発見し補修してください。補修後は再度気密試験を実施してください。
  - ④気密試験後の真空引きを必ず実施ください。



- ▶六角レンチタイプ
  - 弁棒はストッパーに当たるまで開けてください。それ以上に力を加える必要はありません。
  - 作業が完了しましたら袋ナットを元通りに締め付けてください。
- ▶ピンタイプ
  - キャップをはずして下図の状態にしてください。
  - 作業が完了しましたら袋ナットを元通りに締め付けてください。

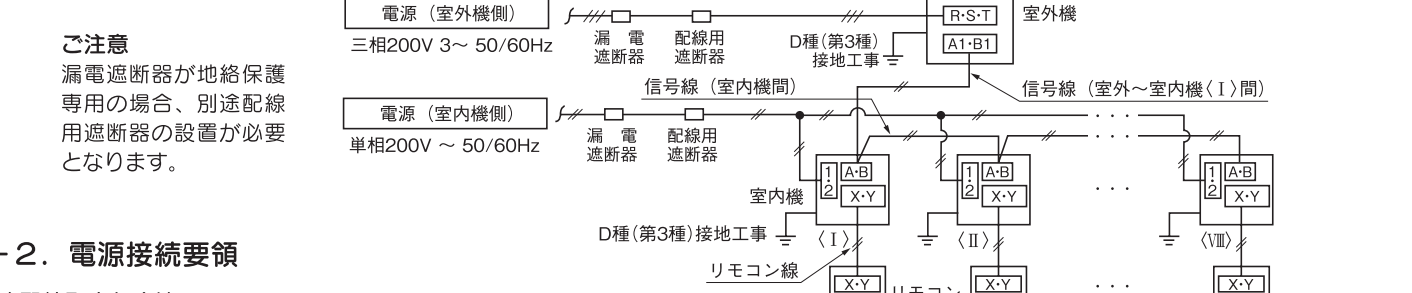
6

# 6. 電気配線

- 電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。
- 電気工事は「電気設備に関する技術基準」及び「内線規程 JEAC8001（最新版）」に従い施工してください。
- ⚠**漏電遮断器を設置ください。**感電、火災事故防止のため漏電遮断器の設置が義務付けられています。（本機はインバータ装電を有するので漏電遮断器の誤動作防止のため**衝撃波不動作形**を使用してください。）

- お願い**
- (ア)電線は銅以外のものを使用しないでください。
- (イ)電源は、**室外機・室内機それぞれ別電源**です。
- (ウ)電気ヒータ（別売品）なしにて記載しております。別売の電気ヒータを組み合わせる場合は、電源仕様、配線仕様及び配線個数が異なりますので、ご注意ください。
- (エ)同一系統内の**室内機の電源は、必ず全て同時ON-OFF**になるようにしてください。
- (オ)電源線のアース工事を必ず行ってください。アース線はガス管、水道管、電話や他のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は感電や誤動作の原因になることがあります。
- (カ) **衝撃波不動作形漏電遮断器の取付けが必要**です。漏電遮断器が取付けられていないと、感電や火災の原因になることがあります。電源は工事が完了するまで入れないでください。サービスは電源を切ってから行ってください。
- (キ)力率改善用進相コンデンサは絶対に取付けしないでください。（力率改善されないだけでなく、異常過熱事故を起こします。）
- (ク)電源配線は電線管を使用してください。
- (ク) **機外では弱電（リモコン、信号線）と他の強電配線は同一場所を過ぎないように配線**してください。電気ノイズの影響を受け誤動作や故障の原因になります。
- (シ)電源配線及び信号線は必ず電源端子台に接続しユニット内の配線固定用クランプで固定ください。
- (サ)配線は配管などとは接触しないように固定してください。
- (シ) **配線接続後、電気品箱内の各電気部品のコネクタ抜けや端子外れがないことを確認**しふたを確実に取付けてください。（取付け不良等により水が滲入すると誤動作や故障の原因になります。）
- (ス)変則V結線（三相200Vと単相100Vの両方を作る結線）となっている変圧器には接続しないでください。もし変則V結線となっている変圧器に多くのエアコンを設置すると本機から発生する高周波の影響により100Vの電気機器が誤動作または故障するおそれがあります。

### 6－1. 配線系統図



- (1) 配線取出し方法
- 4－2の（1）に示す図の通り配線の取出しは前・右・下・後が可能です。
  - 現地配線接続時、外板の貫通穴のハーフブランクをニッパにて切断し切り落としご使用ください。
  - ドレン集中排水の際には、配線・配管の取出口は下抜き以外をご利用ください。下抜きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

- (2) 電源配線接続時の注意
- アース線は電源線接続前に接続してください。また、端子台にアース線を接続する時は、アース線を電源線より長くし、アース線にテンションがかからないようにしてください。
  - 電源は工事が完了するまで入れないでください。サービスは電源を切ってから行ってください。
  - アース工事はD種（第3種）接地工事に基づき実施してください。
  - 電源配線は必ず電源端子台に接続し、操作弁ブラケットにあるタイラップでクランプしてください。
  - 電源端子台への接続は、丸型圧着端子を使用ください。1個の端子に2本接続する場合は、圧着端子が背中合わせになるよう配線ください。また、その場合線径の細い配線が上になるように配線してください。
  - 配線は指定の電線を使い確実に接続し、端子部に外力が加わらないように固定ください。
  - 端子のねじ締め付けには、適正なドライバーを使用してください。端子ねじを締めすぎるとねじを破損する可能性があります。
  - 電源工事終了後、電気品箱内の各電気部品のコネクタ抜けや端子外れがないことを確認ください。

### (3) 室外機電源仕様：三相200V 3～ 50/60Hz電源

機種	電源用配線太さ (mm²)	配線こう長 (m)	漏電遮断器		配線用遮断器	
			(地絡、過負荷、短絡保護兼用)		開閉器容量	過電流遮断器定格容量
224	14	44	50A 30mA 0.1sec以下		50A	50A
280	14	41	50A 30mA 0.1sec以下		50A	50A

- お願い**
- (ア) 配線要領は内線規程（JEAC8001）に基づいて決められています。
- (イ) 表中のこう長、配線太さは、電圧降下を2％以内とした場合のこう長・配線太さを示します。配線こう長が上表の値を超える場合は、内線規程に従い配線太さを見直してください。
- (ウ) 漏電遮断器が地絡保護専用の場合、別途配線用遮断器の設置が必要となります。配線用遮断器の選定については技術資料を参照いただくか、代理店又は弊社へお問い合わせください。

### (4) 室内機電源仕様：単相200V ～ 又は 三相200V 3～ 50/60Hz電源

室内機合計電流	配線太さ (mm²)	配線こう長 (m)	配線用遮断器	
			(地絡、過負荷、短絡保護兼用)	
7A以下	2	21	20A 30mA 0.1sec以下	
11A以下	3.5	21	20A 30mA 0.1sec以下	
12A以下	5.5	33	20A 30mA 0.1sec以下	
16A以下	5.5	24	30A 30mA 0.1sec以下	

- お願い**
- (ア) 左表は標準仕様を示します。電源は単相200Vまたは三相200Vを準備ください。
- (イ) 表中の巨長は、室内機を直列に接続した場合の値を示します。また、室内機合計電流別に電圧降下を2％以内とした場合の配線太さこう長を示しています。電流が左表の値を超える場合、内線規程に従い配線太さを見直してください。
- (ウ) 室内機への接続線は5.5mm²まで可能です。8mm²以上は専用ブルボックスを使用し、室内機へ5.5mm²以下で分岐してください。
- (エ) 左表は電気ヒータ（別売）を含みますに記載しています。電気ヒータを組み合わせる場合は、電源仕様、配線仕様が異なりますので、ご注意ください。
- (オ) 室内機端子台の③端子は別売の補助ヒータ使用時のみ接続（ヒータ用電源）してください。

8



6－3. 信号線接続要領

本機では従来の通信方式であるスーパーリンク（以下「IBSL」と表記します）と新通信方式であるスーパーリンクⅡ（以下「新SL」と表記します）の2通りの通信方式が選択できます。それぞれ以下の特徴、制限がありますので接続する室内機や集中制御に合わせて選択してください。

新SL未対応の室外機、室内機、集中制御機器が接続されているネットワークに信号線を接続する場合は冷媒系統が別であっても旧SLでの通信を選択してください。

通信方式	従来通信方式（旧SL）	新通信方式（新SL）
室外機の設定（SW5-5）	ON	OFF（出荷時設定）
同一ネットワーク内の室内機台数	最大48台	最大128台
同一ネットワーク内の室外機台数	最大48台	最大32台
信号線（合計長さ）	1000mまで	シールド線以外を使用する場合は2000mまで シールド線（MVVS）0.75mm <sup>2</sup> を使用する場合は1500mまで シールド線（MVVS）1.25mm <sup>2</sup> を使用する場合は1000mまで
（最長長さ）	1000mまで	1000mまで
接続可能室内機	新SL未対応機（FDOP○○○2LXシリーズ） 新SL対応機（FDOP○○○3LXシリーズ） 混在も可能	新SL対応機（FDOP○○○3LXシリーズ）

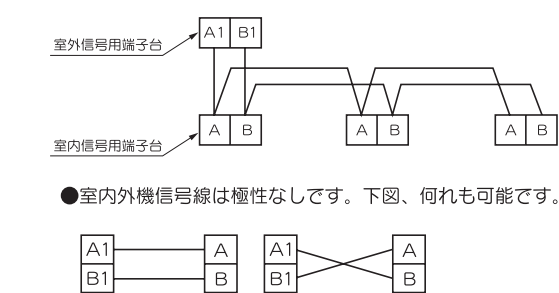
注：FDTP224,280形は室内機1台につき通信上は2台分として台数計算してください。

- **信号線はDC5Vですので絶対に200Vの配線を接続しないでください。** 基板上の保護ヒューズが動作します。
- ①信号線に200Vが印加されないようになっていることを確認してください。
- ②電源投入前に信号線端子台抵抗をご確認ください。信号線端子台抵抗が100Ω以下の場合は、電源線を信号線端子台に接続している可能性があります。
- 抵抗値の目安＝46000／{(○○○2シリーズ接続台数×5)＋(○○○3シリーズ接続台数×9)}** です。
- 抵抗値が100Ω以下になる場合は同一ネットワーク上の室内機台数を減らすため、一時的に信号線を外して複数のネットワークに分離し、個別に確認してください。

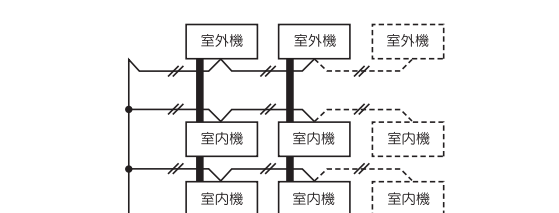
室内・室外信号線

- A1・B1に室内・室外機間信号線をつないでください。
- A2・B2に室外機間信号線をつないでください。

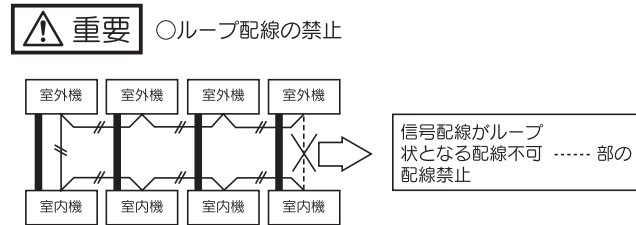
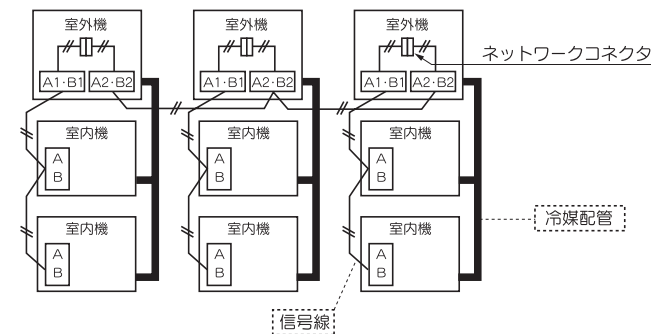
(1) 室外機1台の場合



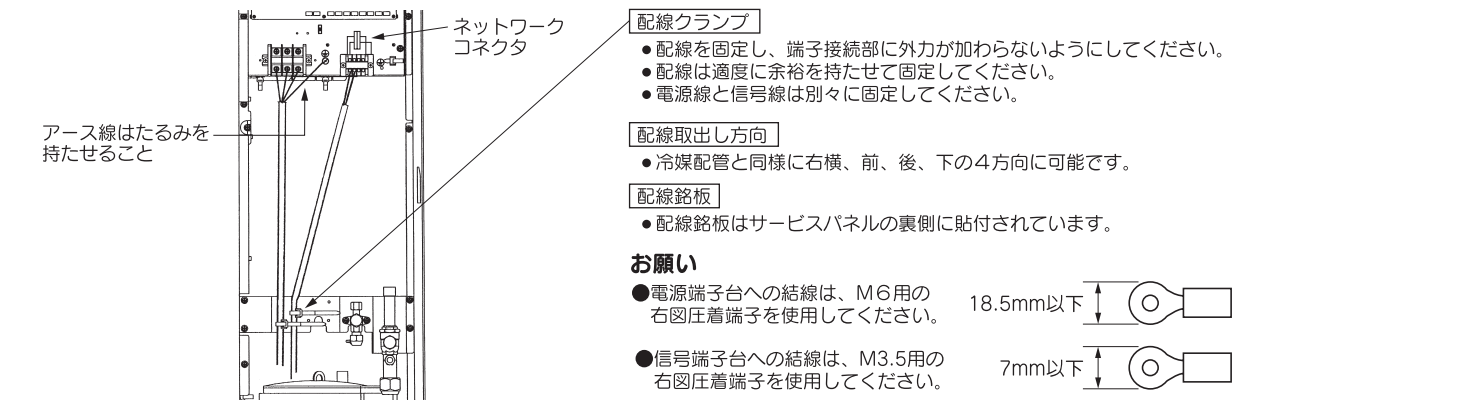
(3) 下図のように信号線を接続する方法も可能です。



(2) 室外機複数台の場合



電源線・信号線結線



リモートコントローラ配線仕様

- リモコン線は0.3mm<sup>2</sup>が標準です。延長は600mまで可能です。
- 100m以上の場合は、右表に示す配線を使用してください。
- 接続室内機がFDOP○○○2LXシリーズの場合3心、FDOP○○○3LXシリーズの場合2心を使用してください。

長さ (m)	配線太さ
100～200以内	0.5mm <sup>2</sup>
～300以内	0.75mm <sup>2</sup>
～400以内	1.25mm <sup>2</sup>
～600以内	2.0mm <sup>2</sup>

9

## 7. コントローラーの設定

7－1. ユニットアドレスの設定

本制御システムでは、複数の空調機の室外機と室内機及びリモコンからなるコントローラを、各コントローラ内のマイコンにより通信制御するものです。アドレスの設定は室外機と室内機の両方とも行ってください。室外→室内の順で電源を入れてください。間隔は1分を目安にしてください。

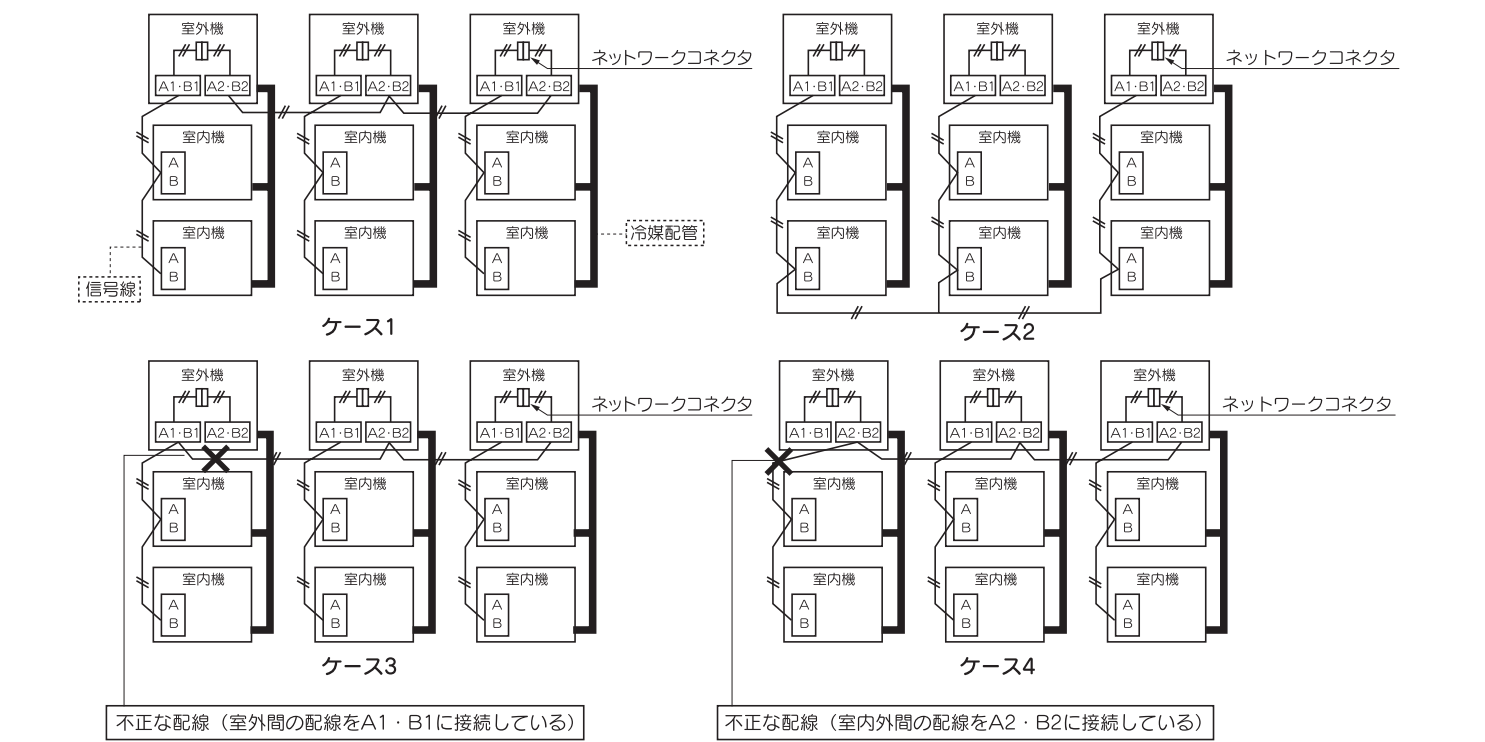
本機では従来の通信方式（旧SL）と新通信方式（新SL）の2通りの通信方式が選択できます。それぞれ6-3の表の特徴、制限がありますので接続する室内機や集中制御に合わせて選択してください。

新SL未対応の室外機、室内機、集中制御機器が接続されているネットワークに信号線を接続する場合は冷媒系統が別であっても旧SLでの通信を選択してください。

**アドレス設定後通信ができるようになったら室外機7セグで通信方式を確認してください。**

通信方法		新SL		旧SL	
アドレス方法		自動	手動	自動	手動
複数の冷媒系統を信号線で接続する場合 (例えば集中制御を行う場合)	ケース1 複数の冷媒系統を接続する信号線が室外機間で接続されている場合 (ネットワークコネクタを外した際に各冷媒系統が1系統ずつに分離される状態)	OK※1	OK	×	OK
	ケース2 複数の冷媒系統を接続する信号線が室内機間で接続されている場合	×	OK	×	OK
冷媒系統が1系統の場合（信号線が冷媒系統をまたがない場合）		OK	OK	OK	OK

- ※1 A1・B1に室外機間信号線を接続しないでください。 アドレス設定ができない場合があります。（ケース3）  
A2・B2に室内外機間信号線を接続しないでください。 アドレス設定ができない場合があります。（ケース4）
- ※2 ケース2の場合自動アドレス設定ができません。手動にてアドレス設定を行ってください。



●アドレスNo.設定

基板上的設定SW1～4及びSW5-2、室外基板上の設定SW1、2を「アドレス設定方法一頁」の表のように設定してください。	
室内基板	SW1, 2 室内No.設定用（10の位と1の位） SW3, 4 室外No.設定用（10の位と1の位） SW5-2 室内No.スイッチ（100位）（OFF：0、ON：1）
室外基板	SW1, 2 室外No.設定用（10の位と1の位）

●アドレス設定方法一覧【 】内は旧SL用の数値

	新SL対応機			新SL未対応機		
	室内機アドレス設定	室外機アドレス設定		室内機アドレス設定	室外機アドレス設定	
室内No.SW	000～127[47]	00～31[47]		00～47	00～47	
室外No.SW	00～31[47]	00～31[47]		00～47	00～47	
1冷媒系統自動アドレス（旧SL／新SL）	000	49		49	49	
複数冷媒系統自動アドレス（新SLのみ）	000	49		00～31	不可	不可

- 本表以外の数値に設定しないでください。エラーが出る場合があります。
- 注：FDOP○○○2LXシリーズのネットワークなど旧SLのネットワークに新規に追加する場合は、通信方式は旧SLを選択し、手動アドレス設定してください。
- FDTP224,280形は室内機1台につき基板が2個ありますので2個の基板それぞれ異なる室内No.SWを設定してください。
- 室外No.は室外基板と室内基板上にあり、どの室外機とどの室内機が冷媒配管で結ばれているかを示すNo.です。冷媒配管で結ばれた室内・室外機は同一室内No.となるようにしてください。
- 室内No.は室内機を認識するためのNo.です。ネットワークの他の室内機と重複しないようにしてください。

10

以下の手順は特に断りがない場合は通信方式として新SLを選んだ場合の手順です。旧SLを選んだ場合には【 】内の数値に読み替えて作業を行ってください。

- 手動アドレス設定 新SL/旧SL共通【 】内は旧SL用の数値**
- ①室外機のアドレス設定 電源投入前に次のとおり設定してください。電源投入することで室外アドレスが登録されます。
- 室外No.スイッチを00～31【旧SLの場合00～47】**の範囲で設定してください。
- ネットワーク上の他の室外No.と重複しないように設定してください。
- ②室内機のアドレス設定 電源投入前に次のとおり設定してください。電源投入することで室内アドレスが登録されます。
- 室内No.スイッチを000～127【旧SLの場合00～47】**の範囲で設定してください。
- 室外No.スイッチ**は対応する室外No.を**00～31【旧SLの場合00～47】**の範囲で設定してください。
- ネットワーク上の他の室内No.と重複しないように設定してください。
- ③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分間以上を目安にしてください。
- ※同一ネットワーク内に新SL未対応機がある場合、SW5-5をONにして通信方式を旧SLとしてください。旧SLの場合、ネットワーク最大接続室内機台数は48台です。

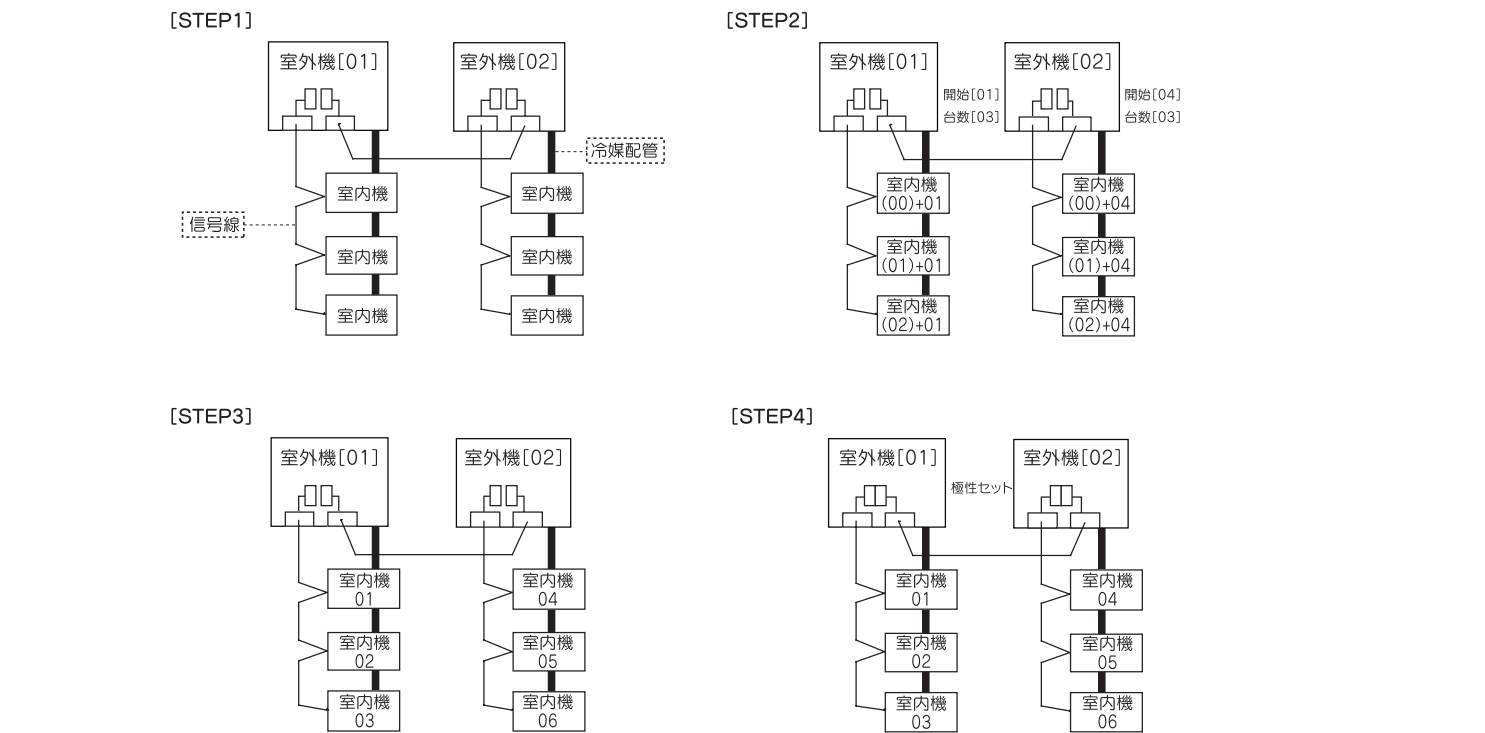
- 自動アドレス設定 新SL/旧SL共通【 】内は旧SL用の数値**
- 新SLでは従来の冷媒系統が1系統の場合の自動アドレス設定に加え、複数の冷媒系統を信号線で接続する場合でも室内機の自動アドレス設定が可能です。ただし、配線方法等、条件がありますので本説明書をよく読んで実施願います。
- (1)冷媒系統が1系統の場合（新SL/旧SL共通【 】内は旧SL用の数値）
- ①室外機のアドレス設定 電源投入前に次のとおり設定してください。
- 室外No.スイッチが出荷時の49**に設定されていることを確認してください。
- ②室内機のアドレス設定 電源投入前に次のとおり設定してください。
- 室内No.スイッチが出荷時の000【旧SLの場合49】**に設定されていることを確認してください。
- 室外No.スイッチが出荷時の49**に設定されていることを確認してください。
- ③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分間以上を目安にしてください。(2)の手順のように7セグで設定を行う必要はありません。
- ④室外機の7セグで表示される室内機台数と実際に冷媒配管が接続されている室内機の台数が一致するか確認してください。

- (2)冷媒系統が複数の場合（新SLのみ可能。旧SLの場合、手動設定でアドレス設定してください）
- (冷媒系統を接続する信号線が室外機間で接続されており、通信方式として新SLを選択した場合のみ実施できます。)

操作手順（各室外機で実施願います）

- [STEP1]（電源投入前実施内容）
- ①室外機のアドレス設定 電源投入前に次のとおり設定してください。
- 室外No.スイッチを00～31**の範囲で設定してください。ネットワーク上の他の室外No.と重複しないように設定してください。
- ②室内機のアドレス設定 電源投入前に次のとおり設定してください。
- 室内No.スイッチが出荷時の000**に設定されていることを確認してください。
- 室外No.スイッチが出荷時の49**に設定されていることを確認してください。
- 各室外機の**ネットワークコネクタ（白色2P）**を外してください。(接続したまま電源投入されると誤設定となります。)
- [STEP2]（電源投入と自動アドレス設定）
- ④室外機室内機電源投入 室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分間以上を目安にしてください。
- ⑤各室外機の7セグのP31で“1”を選択して確定をし、自動アドレス開始を入力してください。
- ⑥開始アドレスと室内機接続台数の入力 各室外機の7セグのP32で室内機の開始アドレスを入力してください。
- ⑦開始アドレスを設定すると接続台数入力に戻ります。 各室外機の7セグで室内機接続台数を入力してください。各室外機ごとの接続台数を入力願います。(7セグのP33で入力できます) 接続室内機が入力されたら7セグ表示は「AUX」となり点滅します。
- [STEP3]（自動アドレス完了確認）
- ⑧室内機アドレス決定 室内機アドレスが決定したら7セグが「AUE」となり点滅します。このときエラーがあれば「A○○」表示となります。 各室外機を表示を確認願います 室内機接続台数により確定するまで**10分程度**かかる場合があります。
- [STEP4]（ネットワーク確定設定）
- ⑨ネットワーク接続 各室外機ごとに「AUE」表示を確認したら③で外した**ネットワークコネクタを接続**してください。
- ⑩ネットワーク極性設定 **ネットワークコネクタの接続**を確認後、ネットワークの極性設定のため、**任意の室外機（1台のみ）**より7セグのP34で“1”を選択して確定をしてください。
- ⑪設定完了確認 ネットワークが確定したら各室外機の7セグに「End」を表示します。「End」表示は7セグ操作もしくは3分経過後消灯します。

	STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
内電源	②OFF	④ON	—	—
外電源	①OFF	④ON	—	—
室内機（室内/室外 No.SW）	②内000 /外 49（出荷時）	—	—	—
室外機（室外 No.SW）	①01,02（例）	—	—	—
ネットワークコネクタ	③外す	—	—	⑨接続（各室外機）
自動アドレス開始設定	—	⑤各室外で開始設定セット	—	—
開始アドレス設定	—	⑥外01：[01]（例）外02：[04]（例）	—	—
接続台数設定	—	⑦外01：[03]（例）外02：[03]（例）	—	—
極性設定	—	—	—	⑩任意室外機から7セグP34セット
7セグ表示	—	⑦ [AUX]（点滅）	⑧「AUE」（点滅）エラー時は「A○○」表示	⑪「End」



- ・同一冷媒系統内のアドレス設定は室外機の認識した順番に設定されますので、必ずしも図のように室外機から近い順番に付番されるわけではありません。
- ・必ず全ての室内機の電源が入っていることを確認して下さい。
- ・設定完了後リモコンの点検スイッチを押すと確定した室内機アドレスNo.と室外機アドレスNo.が表示されます。
- ・1つのリモコンで複数台制御する場合でも自動アドレス設定は可能です。
- ・1度登録したアドレスは電源を切ってもマイコンに記憶されています。
- ・自動アドレス後アドレスを変更したい場合は、リモコンで行う「アドレス変更」もしくは室内機アドレススイッチで行う「手動設定」により変更が可能です。変更する場合はネットワーク上の他のアドレスNo.と重複しないように設定してください。
- ・自動アドレスが終了するまでは集中制御機器の電源は投入しないで下さい。
- ・アドレス設定後は必ず試運転を実施し、全ての室内機、室外機が正常に運転できることを確認し各室内機のアドレスを確認して下さい。

アドレス変更（新SLのみ可能）			
「アドレス変更」とは「自動アドレス設定」で既に設定した室内ユニットアドレスをリモコンで変更したい場合に使用します。従ってリモコンによるアドレス変更ができる条件は次の通りとなります。			
	室内機アドレス設定	室外機アドレス設定	
	室内No.SW	室外No.SW	室外No.SW
1冷媒系統自動アドレス	000	49	49
複数冷媒系統自動アドレス	000	49	00～31

この条件以外のアドレス設定の場合に「アドレス変更Ⅱ」を選択した時点でリモコンに下記表示を3秒間します。

ドット液晶表示：「操作無効です」（3秒間点灯）



